幸樹

こう　じゅ

第 93 号
2022 年 12 月 1 日

ホームページ　職員募集

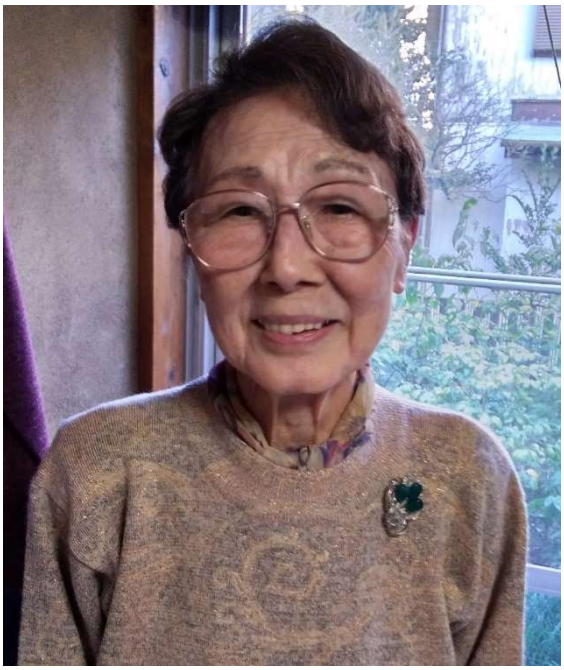
発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会
……幸樹会事業所……
からたち薬局・介護ショップからたち☎047-710-2785
あんず訪問看護ステーション　☎047-701-5559
あんず居宅介護支援事業所　☎047-701-5558
ケアステーションゆず　☎047-701-5506
看護小規模多機能型居宅介護さんしょう　☎047-710-0331
幸樹会本部　☎047-701-7550
〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館

「海の中のクリスマス」

絵・ 高橋　聖大

色々なことを経験してきたから、好きなことがたくさん！

矢口和子さんに、お聞きしました



矢口和子さんは右被殻出血を患い、病院でリハビリに取り組んだ後ご自宅に退院されました。「近所を安定して歩けるようになりたい」という本人様とご家族様の思いから、あんず訪問看護ステーションでの訪問看護、訪問リハビリが開始となりました。いつも笑顔で、綺麗な矢口さんから人生経験についてお話を聞かせて頂きました。

（聞き手・作業療法士 川副真弓）

矢口さんは千葉県松戸市出身、松戸育ちの昭和９年生まれ 88 歳です。叔父の紹介で旦那さんと出会い、矢口さんが２２歳、旦那さんは２７歳の時にご結婚されました。旦那さんはとても温厚で仕事熱心な方で、園芸が趣味でした。「お花が咲いていないと庭が寂しいから」と、一年中お花が見られるように自宅の庭に温室を作り、蘭を育てていました。旦那さんのお花への思いが通じたのか、何度も賞をとっていたとのことです。矢口さんは専業主婦で、とても趣味が多く充実した日々を送っていました。初めに、和裁・編み物を習いご家族の方にたくさんの衣類を作成されていたそうです。矢口さんの作る物はとても丈夫で皆さんから評判でした。次に、俳画を月に１回恵比寿まで習いに行っていました。俳画の先生と矢口さんの作品は四季が用いられていて何枚見てもワクワクするような作品でした。また、登山もお好きで旦那さんと２０以上の山を登り朝日新聞社からトロフィーを頂いたそうです。多趣味な矢口さんですが、一番長く続いたのはヨガでした。３６年間通い続け、嫌な日は一度も無かったとのことです。その影響からか、お身体が柔らかく、運動に対してもとても前向きな印象を受けています。優しい旦那さんは、矢口さんの趣味を受け入れ、今まで連れ添ってきて否定されたことは無かったとのことです。旦那さんは、８４歳でご逝去されており来年１３回忌を迎えるとのことです。ご自宅内には旦那さんが育てていた蘭の写真や、ご家族の方々の写真がたくさん飾られており、仲睦まじかったことが容易に想像できます。現在はご近所に娘さんが住まわれていて、「昨日娘が来てパスタを一緒に食べたのよ」と笑顔でお話しして下さいます。北海道にもお孫さんが住まわれており、年に数回曾孫さんたちと遊びにきてくれるため、楽しみにされているそうです。お孫さんと一緒にスーパーに行くと、「おばあちゃん、前より背筋が伸びてるね、頑張ってるんだね」と変化に気づいてくれるため、頑張る糧になっているとのことでした。私が一番感じたことは、優しさはどんどん広がっていき、優しい輪をつくってくれるのだと思いました。矢口さんは、趣味で繋がったたくさんの友達、ご近所の方達、ご家族様の話をされる時に「私はいつも周りに恵まれているから、元気でいられる」と話されています。きっと矢口さんの優しく、温かい人柄に様々な人が寄ってきているのだと思います。今は趣味には取り組めていませんが、ご家族様達と過ごすことができて満足した毎日を送れているとのことです。これからもお元気で生活していただきたいと思います。（写真は俳画と登山で朝日新聞社からもらったトロフィー）

ケアマネジャー の こころ

あんず居宅介護支援事業所

主任ケアマネジャー　岩橋　多恵子

ノンフィクション作家 柳田邦男さんが提唱されている「２．５人称の視点」をご存じでしょうか。私たちが物事を判断するうえで、どういう立場から対象を見ているかという“ものを見る目”の人称によって、考え方が変わってくる。１人称（私）と２人称（あなた）の立場は、当事者の関係であり物事に直面しているが、３人称（それ以外）の立場の人にとっては他人事であり、当事者の気持ちを理解できないこともある。専門家はできるだけ２人称の立場に近づく。しかし２人称の立場になってしまうと、今度は感情移入が強過ぎて、客観的、社会的な役割を果たすことができない。冷静な立場を維持しながら、その身になって考えるということも加味した「２．５人称」という考え方です。

私たち介護や医療に携わる立場、その方の人生や命に直接関わらせていただく者として、この「２．５人称の視点」を持ち続けたいと思っています。１人称（利用者）と２人称（家族）、３人称は私たちになるわけですが、利用者様に対して自分の家族に寄り添うような温かさと専門職としての知識と技術を持って役割を果たすことが大切だと考えています。それでも一緒になって思い悩み、適切な判断ができなくなってしまったり、「もっと気持ちに寄り添ってほしい」と言われてしまった苦い経験もあります。そのようなときは冷静さを欠いたり、サービスの調整ばかりに奔走してしまっていたのだと思います。そのためには専門職としても人間的にもまだまだ研鑽が必要です。

これからも「熱い心と冷たい頭」を意識して、目指していきたいと思います。

看多機さんしょうの見学研修の感想

千葉健愛会あおぞら診療所で在宅医療研修をされている研修医の方々が、さんしょうを見学研修をされ、感想をいただきましたので、ご紹介いたします。

お世話になっております。あおぞら診療所研修医の花山聡紀です。昨日はお忙しい中、見学させていただきありがとうございました。これまで訪問看護やリハビリを見学する機会はほとんどなく、貴重な経験ができました。実際にどのようなことをしているのか、どのように情報共有をしているのかを知る事ができ、まだぼんやりとはしていますが自分の中でイメージができました。スタッフの方々が利用者さんのニーズに合わせた対応をされているのが印象的でした。看護小規模多機能居宅介護についても十分な知識がありませんでしたが、一から教えていただき、理解が深まりました。スムーズな連携が取れるような仕組みであり、その上、ショートステイの場では今回見学させていただいたような大変な処置も行うことができ、在宅療養を支える非常に重要なサービスだと感じました。在宅で過ごされる方も増えてきており、自分自身が関わる機会も増えていくことと思います。今回学んだことを今後の診療に活かしていければと考えています。最後になりますが、このような機会をいただきましたこと改めて御礼申し上げます。

あおぞら診療所 研修医 花山聡紀

さんしょうの皆様へ

先日研修をさせていただいた、あおぞら診療所実習中の虎の門病院初期研修医、加藤　可那と申します。当日はいろんな内容を計画いただきありがとうございました。１番印象的だったのは午前の小児のケアでした。呼吸器の取り扱いから、入浴まで決まった時間内で段取り良くこなしており、大変驚きました。一方でご家族の協力がどれだけあるかによって、決まった時間内にできるケアが変わることも身に染みて感じました。訪問看護にてこのような重たいケアをされている現場を体験できました。またお昼ご飯もいただきありがとうございました。ほっこりしたご飯で私を始め利用者も楽しめる内容だと思いました。最後には施設内設備をご案内いただけました。そこで過ごす方々が穏やかに不自由ないように入浴設備が整えてあったり、家族のお看取り配慮したお部屋の構造、さらにはコロナ禍で感染の蔓延を防ぐために工夫をしっかりされている点、施設ならではの問題点など大病院勤務ではわからない内容も聞くことができました。病院を退院したあとの患者さんが、どのような暮らしをしているのかを目で見ることができました。１つの施設で泊まりから訪問看護まで完結するさんしょうさんが街で果たす役割の大きさを改めて実感しました。お忙しい中、大変貴重な時間をいただきありがとうございました。

虎の門病院初期研修医２年加藤　可那

デンマーク便り…㊶

ラスムッセン　京子

デンマーク交通安全評議会と研究機関 Wilke が行った調査では、16 歳から 19 歳の若者の 30%が、過去 1 年間に 1 回以上、酔って自転車をコントロールするのが困難な状態で自転車に乗ったことがあると回答しています。デンマークは平坦なので、自転車での移動はポピュラーです。

交通安全対策協議会は、飲酒運転の危険性を訴える新しいキャンペーンを開始します。新キャンペーンは、11 月 28 日から 12 月 18 日まで実施されます。

国立病院の外傷センターによると、自転車の飲酒運転には、頭蓋骨骨折や脳出血の危険性があり、このキャンペーンは、16 歳から 19 歳の若いサイクリストを対象としています。すべての若者に飲酒後のサイクリングを止めさせることはできないことは十分承知しています。しかし、私たちは最も飲酒している人を止めたいのです。若いサイクリストが酔っ払って運転すると、大きな怪我につながることもある、と彼は続ける。「デンマークの若者は飲酒が原因で死亡している。」と。国立病院の外傷センターでは、若い酔っぱらいのサイクリストがどのような結果を招くか、スタッフがよく知っています。

　蓋骨骨折や脳内出血などの重傷を負い、健康を損ない、最悪の場合、命を落とす危険性があるのです。内出血を起こすと、命にかかわることもあり、緊急手術が必要になることもあると、外傷センターのエミール　ウルベルグ氏は記者会見で述べています。

このキャンペーンで、デンマーク交通安全評議会は若い人たちにアピールするつもりです。酔っぱらいたいときは友達に迎えに来てもらうなど、お互いに助け合うべきだと、交通安全協会の副議長、カリーナ・ピーターセンは指摘しています。

学校でのアルコール取り締まりについて「飲まなくてもいいという文化を作った方がいい」と学生たちは言っています。高校生などこれから年末年始に向けて、クリスマスビール（低アルコールをうたったビール）の販売、アルバイト先の忘年会とアルコールに寛容なデンマーク社会に警鐘を鳴らしています。

新入職員の紹介

看多機さんしょう・介護福祉士　藤谷恭子

　柏市在住です。生まれは松戸市（～7 才まで）育ちは船橋市、結婚し柏に住み 20 年になります。入職して、八柱・紙敷周辺を走っていると、幼いころ父と走っていた風景を思い出し、懐かしく感じています。ヘルパー歴は 10 年ですが、利用者様によってケアも対応もコミュニケーションも全て違うということを再認識し、利用者の皆さんに寄り添った介護をしたいと思っています。暖かく明るい「さんしょう」で頑張ります。よろしくお願いします。

ミニニュース

青森の成田富作さんより今年も秋のお便り「りんご」届きました

地域交流カフェ
「クリスマス会」
12 月 20 日さんしょうご
利用者のみで行います。

八柱学習会

○11/18、15 名参加。

▼次回学習会予定（「定例日：毎月第 3 金曜日）
12 月 16 日（金）１８：３０～、あつまーれ幸樹
「対人援助者に求められる基本姿勢」
あんず居宅主任ケアマネジャー　岩橋多恵子
《参加自由》

今月の屋上太陽光発電量は、
798KWh
幸樹会館電力使用量 4227KWh　自給率 18.87%

職員募集！非営利・働きがいある職場
看護師・介護職員
●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり
問い合わせ：本部中野まで、☎047-701-7550